

都市再生整備計画 フォローアップ報告書  
小倉都心地区(第3期)

令和元年12月

福岡県北九州市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見			
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性				
指標1	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	人/日	145,000	156,200	152,000	確定 見込み	△	あり なし	-	●	144,680	H30年8月 H30年10月	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 改善策はそのまま</li> <li>□ 改善策に補強が必要</li> <li>□ 新たに改善策をたてる</li> </ul>	<p>小倉駅前の大型商業施設の一部テナントの撤退発表による地区全体への影響もあり、H30年度の商店街エリアを中心とした歩行者通行量は目標値、従前値を下回る結果となった。</p>	<p>道路整備等による歩行者空間の改善や賑わい創出を目的とした各種ソフト事業を実施した結果、5ヶ年の計画期間を平均すると149,488人/日となり、従前値を上回る歩行者通行量となった。また、夜間や、小倉駅北口エリア等の歩行者通行量においては一定の成果を挙げており、エリア内の交流人口増加につながってきていると考えられる。</p>
指標2	小倉都心部来街者の平均立ち寄り地区数	地区/人	2.37	3.02	2.77	確定 見込み	△	あり なし	-	●	2.62	H31年3月	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 改善策はそのまま</li> <li>□ 改善策に補強が必要</li> <li>□ 新たに改善策をたてる</li> </ul>	<p>目標達成に至らなかったが、立寄り地区数は増加傾向にあり、歩行者空間の改善・公園等の整備、照明の設置などにより、回遊性が向上してきた結果であると考えられる。</p>	
指標3	小倉都心部における平均空き店舗率	%	10.8	8.6	10.0	確定 見込み	△	あり なし	-	●	8.8	H30年10月	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 改善策はそのまま</li> <li>□ 改善策に補強が必要</li> <li>□ 新たに改善策をたてる</li> </ul>	<p>各種事業を実施した小倉駅周辺の商業エリアの空き店舗率は、近年、改善傾向にあり、一定の成果を挙げている。リノベーションまちづくり等の取組により創業や雇用において、着実に成果を上げていることも寄与していると考えられる。</p>	
指標4	小倉都心部におけるJR・モノレール駅、市営渡船場の年間利用者数	万人/年	4,099	4,145	4,260	確定 見込み	○	あり なし	-	-	4,279	H30年1月 ~ H30年12月	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 改善策はそのまま</li> <li>□ 改善策に補強が必要</li> <li>□ 新たに改善策をたてる</li> </ul>	<p>各種事業の実施により都心部の魅力が向上し、地区内への来街者が増加したことに加え、小倉駅周辺の歩行者空間の整備やアクセシビリティの向上等によって、乗降客数の増加につながったと考えられる。</p>	
指標5	小倉都心部における観光客数	万人/年	565.9	638.0	607.0	確定 見込み	△	あり なし	-	●	629.0	H30年1月 ~ H30年12月	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 改善策はそのまま</li> <li>□ 改善策に補強が必要</li> <li>□ 新たに改善策をたてる</li> </ul>	<p>観光客数は着実に増加傾向で推移しており、一定の成果を挙げている。近年、増加傾向にある本市への外国人来訪者を対象とした小倉城などの観光拠点の整備や各種イベント実施によって、増加したものと考えられる。</p>	
指標6	夜間景観整備エリアを中心とした夜間の歩行者通行量	人/日	6,423	6,746	6,838	確定 見込み	○	あり なし	-	-	-	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 改善策はそのまま</li> <li>□ 改善策に補強が必要</li> <li>□ 新たに改善策をたてる</li> </ul>	<p>H29年度に「小倉都心地区夜間景観ガイドライン」を策定し、これに基づき、小倉城等の施設を核とした夜間景観の向上や照明設備の見直しなどの公民が一体となった取組により、夜間の交流人口が増加してきていると考えられる。</p>	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価			フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度				1年以内の達成見込み	理由	
その他の数値指標1	小倉駅北口エリア・南北結節点における歩行者通行量	人/日	30,572	33,100	確定 見込み ●			31,396	H30年8月 H30年10月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	H28年度の北九州スタジアムのオープンに合わせてスタジアム周辺施設やインフラを整備し、それらを活用したイベントを開催してきた結果、小倉駅北口エリアの歩行者通行量が増加してきたと考えられる。また、小倉駅南北結節点における歩行者通行量も増加傾向にあり、小倉駅北口エリアで創出した賑わいが少しずつ循環してきていると考えられる。
その他の数値指標2	公示地価の変動率	%	-4.9	+2.2	確定 ● 見込み			—	—		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	都心部における各種インフラ整備事業の推進に加え、小倉駅北口のスタジアムオープンや小倉駅南口の再開発事業の着工等が寄与した結果、H29年度に商業地の地価が24年ぶりに上昇に転じ、その後2年連続で、全国平均・地方圏平均を上回る上昇率になっており、小倉都心の商業地としての魅力が向上してきていると考えられる。
その他の数値指標3	歴史・文化・コンベンション施設への来場者数	千人/年	1,787	2,175	確定 見込み ●			1,774	H30年1月 ～ H30年12月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	H30.8からH31.3.30の間、改装工事により小倉城が閉館していたことから、H30年度は従前値を下回る結果となった。一方で、北九州市を訪れる外国人観光客数は5年連続増加し、H29年度は過去最多を記録するなど好調が続いており、この機を逃すことがないように小倉城周辺をはじめとした施設の魅力向上や発信、アクセス環境改善に取り組んだ結果、施設来場者数は増加してきていると考えられる。
その他の数値指標4	小倉都心部における居住人口	人	31,900	34,800	確定 見込み ●			34,892	H30年9月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	小倉都心部の居住人口は着実に増加。計画エリア内の居住環境は小倉都心に近いという立地条件に加え、道路整備等による生活利便性向上や魅力的な施設整備により都市のブランドイメージを高めていった結果、大手町地区をはじめとした地区内でマンション建設が進んできており、都心の魅力が高まってきていると考えられる。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<p>・成果を持続させるために 行う方策</p>	都心地区の賑わい創出	・小倉城天守閣、しろテラスの整備(H31.3オープン)	・リニューアルオープンした天守閣をはじめ、小倉城を訪れる観光客は増加しており、エリア一帯の賑わい創出につながっている。	・小倉城の魅力について、小倉城とそこに纏わる歴史・文化の魅力を、マスコミとタイアップしたPRやSNSの活用によって効果的に発信していく。
	都心地区内の回遊性向上	・船場町にぎわい広場整備事業(船場広場)の整備(R1.7オープン)	・新幹線口エリア、商店街エリア、小倉城周辺エリアをつなぐ歩行者動線上において、新たな賑わい空間を創出したことにより、地区内の回遊性が向上した。	・引き続き、国家戦略特区を活用したオープンカフェやマルシェの継続的な開催や、新たな賑わい創出空間として整備された「船場広場」での各種イベント開催など、官民公共空間の利活用により、歩きたくなる空間を創出し、回遊性の向上につなげていく。
	商業地としての活力向上	・「シャッターヒラクプロジェクト」による商店街の空き店舗への出店支援 ・且過地区における公民連携まちづくり推進事業の実施	・事業計画の検討段階から、相談者の商店街への出店に伴走し、円滑な出店、商店街関係者等とのネットワークの構築を支援したことにより、商店街エリアへの新規出店につながっている。 ・小倉都心部の魅力を高め、集客活性化に資する新機能の導入や施設配置について検討を行っている。	・引き続き事業者のニーズを踏まえながら、商店街エリアの空き店舗率改善に向けて支援を行っている。 ・引き続き事業進捗を図るため、地域住民や市場関係者の合意形成に努める。
	公共交通機関によるアクセス性向上	・砂津鍛冶町線の車道拡幅	・沿線のバスセンター周辺における、バスと一般車両との交錯による慢性的な交通交雑の解消を図るため、現在、供用開始に向け事業の着実な進捗に努めている。	・早期の供用開始に向け、事業進捗を図る。
	賑わい創出のための空間づくり	・【再掲】船場町にぎわい広場(船場広場)の整備(R1.7オープン)	・地域のまちづくり団体が主体となり、小倉JAZZや北九州フードフェスティバル等の各種イベントを実施しており、小倉都心の賑わいづくりを推進する拠点として機能している。	・今後整備予定の紫川周辺における水景広場などの公共空間も活用しながら、官民一体となった賑わい空間の活用を進め、小倉都心の更なる魅力向上を図る。
	夜間の観光消費拡大	・堺町公園のライトアップ整備 ・商工会議所と協力し、民間施設におけるライトアップを呼びかけ	・現在、堺町公園のリニューアルに向け、工事の進捗に努めている。 ・民間施設における閉店後のライトアップや照明デザイナーが参加したライトアップの設計などの事例が増加している。	・引き続き、「小倉都心地区夜間景観ガイドライン」に基づき、行政施設のライトアップを行っていくとともに、官民で連携をとりながら、夜間における交流人口増加や宿泊者数の増加を図っていく。
<p>改善策</p> <p>・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策</p>	地域の特性を活かした魅力ある拠点の形成	・紫川周辺における水景施設の整備	・新たな魅力を持った水辺の高質空間を形成し、紫川周辺の更なる魅力向上と水辺空間の活用増進を図るため、事業進捗に努めている。	・早期の供用開始に向け、事業進捗を図る
	快適な都市住環境の創出	・小倉駅南口東地区市街地再開発事業(ガーデンシティ小倉)の整備(R1.9竣工)	・JR小倉駅前において、住宅、業務、商業、駐車場などの機能を備えた再開発ビルが完成したことにより、良好で魅力ある都市住環境を創出できた。	・今後は、本市の玄関口である小倉駅周辺において、南北公共連絡通路やJAM広場の照明・天井改修を行い、良好な歩行者空間を創出するなど、更なる良好な都市住環境の整備に努める。
	公民連携によるまちづくりの推進	・【再掲】且過地区における公民連携まちづくり推進事業の実施	・小倉都心部の魅力を高め、集客活性化に資する新機能の導入や施設配置について検討を行っている。	・引き続き事業進捗を図るため、地域住民や市場関係者の合意形成に努める。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項